和歌山県
Wakayama Prefecture

和歌山だより

平成25年（2013）8月号

三段壁（白浜町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ・・・・・・・ P1

2. 和歌山県政トピックス・・P2～P10

3. ふるさと歳時記・・・・・・・P11～P12

稲むらの火

和歌山県にとって将来の最大の危機は、南海トラフで起きる大地震と津波であることは衆目の一致する所です。それに備えてどうするか、起きた時どうするか、そしてその後どうするか、これが求められます。その最も尊敬すべきモデルが濱口梧陵さんの稲むらの火です。

災害が起こった時、人々はまず逃げなければなりません。濱口さんは津波が来る事を予測して稲むらに火をつけてまで人々を誘導して多くの命を助けました。次にとにかく迅速な復旧を行って、人々の心が萎えることを防がねばなりません。また、被害を分析し、将来に備えなければなりません。濱口さんは、私財を投げうって失意のうちにあった村人に食料や寝所を提供し、堤防を築いて将来に備えるとともに、公共事業需要を提供したのです。この濱口梧陵さんの偉業をもう一度全国に発信するために、和歌山県では１０月２６日東京で濱口梧陵シンポジウムを開催します。

また、県では地震津波に備えて、住宅の耐震化補助を提供し、県民の皆さんの避難行動への備えを徹底しようとしています。避難で大事な事は、あらかじめ自分は、家族は、どこへ逃げるかを決めておくことです。決めておかないとまごまごしているうちに津波が来ます。家族がそれぞれどこへ逃げるかということに確信が持てないと家族を迎えに行ったりして被害が拡大します。東北で言われる「津波てんでんこ」は、われ勝ちに逃げよということに主眼があるのではなく、家族がどこに逃げてくれているかについて相互に信頼があるから、それぞれが安心して「てんでんこ」に逃げられるのだということを物語っています。皆さん、市町村当局とよく相談して全員どこに逃げるかをあらかじめ決めておきましょう。

7/10 定例記者会見にて

今月の和歌山県政トピックス

＊ 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●知事が香港を訪問

・７月４日から７月６日まで、仁坂知事が香港を訪問しました。香港貿易発展局では、経済交流の活性化を念頭に置いた、都道府県レベルでは初めてとなるＭＯＵ（覚書）を締結しました。
・また、香港ヤマト運輸株式会社、香港日本レストラン協会前会長には、和歌山県産品の販路開拓・拡大に向けたトップセールスを実施し、さらに、香港における訪日団体旅行の取扱いが第１位であるＥＧＬツアーズと、更なる和歌山県への誘客について意見交換を行いました。

〇駐香港日本国総領事を表敬訪問
・野田総領事を表敬訪問し、現地情勢についての意見交換を行いました。また、総領事館での和歌山県産の食品等の利用は香港社会への効果的なＰＲにつながることから、県産梅酒の利用を依頼しました。

〇香港ヤマト運輸株式会社社長との懇談
・香港ヤマト運輸㈱の 前島 取締役社長との懇談において、同社が配達を担い、ヤフー香港が運営する日本食材販売のインターネット通販ビジネスについて意見交換を行いました。
・また、当該販売サイトにおいて、通年での県産品の取扱いについて協力を依頼したところ快諾を得るとともに、現在、旬を迎えている桃については、デリケートな桃を美味しく香港の家庭に届ける取組を進めていくとの提案をいただきました。
・香港ヤマト運輸㈱は、日本のヤマトグループとともに、現地のヤフー香港などのネット事業者と連携し、香港市民が日本の食材を“お取寄せ”感覚で購入できるよう取り組まれています。既に県産バレンシア等を取り扱っていただいていますが、今回の訪問を機に、桃、梅酒、ジュース、ゼリーなどの取扱いも検討いただくこととなりました。
・香港でも、今後ますますネット販売が本格化するものと思われますが、今回の訪問により、和歌山県は香港で心強いビジネスパートナーを得ることができました。
・さらに、県ではネット販売のみならず、現地マーケットあるいは近隣国への販路開拓も視野に、美味しさだけでなく機能性などの県産品の魅力について、同社を通じて発信していきます。

〇ＥＧＬツアーズ社長との懇談
・香港における訪日団体旅行の取扱いが最大であるＥＧＬツアーズの社長で「和歌山県観光大使」にも就任いただいている袁 文英 氏を訪問し、和歌山県への送客が増加していることへのお礼を述べるとともに、引き続き和歌山県への更なる誘客と、香港における和歌山県のＰＲに協力いただくよう依頼し、快諾を得ました。
・本県への外国人宿泊客数が最も多く、今後のインバウンドの取組において最も重要な地域の一つである香港において、ＥＧＬツアーズとの関係を一層強化できたことにより、今後の本県への更なる観光客誘致が期待できます。

○香港日本レストラン協会前会長との懇談

・香港における現在の日本食ブームの端緒を切り開いた香港日本レストラン協会前会長 フランキー・ウー氏と懇談し、香港における和歌山県食品の販路開拓・拡大について意見交換を行うとともに、香港における和歌山県食品のＰＲについて協力を依頼し、前向きな回答を得ました。

○香港貿易発展局総裁との懇談・ＭＯＵ締結

・香港貿易発展局 フレッド・ラム 総裁を訪問し、和歌山県と香港の経済交流の活性化に向けて協議するとともに、双方の関係強化及び和歌山県と香港との貿易・経済協力促進を目的とした覚書への署名を行いました。

・香港貿易発展局は、香港企業に対する支援、海外企業の香港での活動を支援するほか、貿易・投資の発展と販売促進、香港のイメージアップ活動を世界４０ヶ所において展開している機関であり、都道府県と覚書を締結するのは今回が初めてとなります。

・今回締結したＭＯＵに基づき、県内企業は香港企業とのビジネスマッチング、見本市や商談会への参加等に係る支援を受けることが可能となるなど、県は強力なパートナーを得ることができたと言えます。

・また、香港には中国本土や東南アジア諸国に太いネットワークを持つ企業も多く、香港貿易発展局はこれらの香港企業と協力して、香港を経由して中国・アジアのマーケットにアクセスする企業を支援しています。このことから、県内企業が中国本土・アジアのマーケットに進出していく上でも、強力な支援を受けることが可能となります。

・なお、ＭＯＵ締結に基づく最初の活動として、８月１５日から８月１７日に開催される香港フードエキスポに県内企業が初めて出展しますが、香港貿易開発局から本県出展企業に対して、香港企業の紹介などの支援を得られることとなりました。さらに、今後、香港とのビジネスを希望する企業に対しても、同様の支援をいただけるとの約束を得ました。

・一方、９月初旬に香港貿易発展局のミッション団が来日する際には、和歌山県を訪問し、県内企業を視察することとなり、仁坂知事は、香港企業の希望に応え、香港企業と和歌山県企業の双方にプラスとなるよう支援することを約束しました。さらに、香港は家庭雑貨の有望なマーケットであり、県内家庭雑貨企業が香港へ進出することを希望していることから、今後、このことについて香港貿易発展局と協議を進めていきます。

・今回の訪問により、成長著しいアジアマーケット進出の足がかりとなる可能性を秘めた香港と相互経済交流支援の枠組みを樹立できたことは、県内企業が海外進出に取り組むうえで大変有益なものであると思われます。今後、香港とのビジネスを希望する県内企業に対し、県は相談に応じていくとともに、香港貿易発展局と協力しながら支援していきます。

今月の和歌山県政トピックス

●体操の「田中３きょうだい」が「おいしい！健康わかやま産品応援隊」に就任！

・和歌山県産品には、みかんやうめなど健康的で機能性が高く、美味しい食材が豊富にあり、県では、「おいしい！健康わかやま」をキャッチフレーズに県産品のＰＲや販路拡大に取り組んでいます。この度、ロンドンオリンピック体操日本代表として大活躍された「田中３きょうだい」の 田中 和仁さん、理恵さん、佑典さんの健康や元気なイメージにあやかって、「おいしい！健康わかやま産品応援隊」に就任いただくこととなり、７月３日委嘱状交付式を開催しました。

・委嘱状交付式には、３人を代表して田中理恵さんに出席いただき、仁坂知事は、「和歌山の果物や魚は体に大変いい。それをおいしく食べて健康になって美しくなるというイメージを最も表現してくれているのが田中理恵選手であり、御兄弟だと思う。県産品がスポーツにも美容にも良いことを、全国はもとより世界の皆さんに広げていただきたい。」と期待を込めて委嘱状を交付しました。田中理恵さんは、「和歌山の梅干しは大好きで毎日食べています。県産品の美味しさや魅力をしっかり全国の皆さんに伝えていきたい。」と意気込みを述べられました。今後、県産品ＰＲのそれぞれのイメージリーダー（「健康キャプテン」：和仁さん、「美容キャプテン」：理恵さん、「元気キャプテン」：佑典さん）として活動いただくことで、首都圏をはじめ全国へ県産品の魅力を発信していきます。

・なお、田中和仁さんは、９月末からベルギーで開催される「第４４回世界体操競技選手権大会」に日本代表メンバーとして出場される予定です。また、田中佑典さんは、７月７日から７月１０日までロシアで開催された「第２７回ユニバーシアード（体操競技）」に日本代表として出場し、個人総合７位の成績を収められました。

●コンビニスイーツ「わかやまポンチ」プロジェクト　わかやまポンチ試作コンペ実施

・全国わかやまポンチ協会と和歌山県が取組を進めてきたご当地スイーツ「わかやまポンチ」をファミリーマートがコンビニスイーツとして手掛けるこのプロジェクト。平成２２年６月にスタートし、今年で４年目を迎えます。

・７月３日、和歌山愛あふれる頼もしい子どもたち“ポンチＪｒ”こと和歌山大学附属小学校４年Ａ組の児童たちが、「コンビニスイーツ わかやまポンチ」の商品を実際に試作・提案し、今年のベストポンチが決定しました。

・今回の審査には、全国わかやまポンチ協会総裁やファミリーマートのデザートプロに加えて、「おいしい！健康わかやま産品応援隊」に就任いただいたばかりの 田中 理恵さんにも、特別審査員として参加いただきました。

・審査を終えた 田中 理恵さんは、「どのわかやまポンチもとても美味しかった。コンペなので１位のポンチを選びますが、一生懸命作ったことに誇りを持って下さい。」と話しました。また、チョコレートにロールケーキとイチゴムースを重ね果実をあしらった作品の商品化が決定し、これを企画した同校の 上田 安里さんは、「選ばれると思っていなかったのでびっくり。発売されたらたくさんの人に食べてほしい。」と笑顔を見せました。

・ファミリーマート版「わかやまポンチ」は今後スイーツプロによる開発を経て、１０月下旬から近畿および中国・四国地方のファミリーマート店舗で発売される予定です。

●「ピーチ空甘（くうかん）まるごと体感 in 関空」を開催しました！

・「和歌山の美味しい桃」を全国にＰＲするため、西日本一の桃の産地である和歌山県と紀の川市、ＪＡ紀の里の三者が関西空港を拠点とするPeach Aviation株式会社(LCCピーチ)と「もも」をご縁としたコラボ企画を実現しました。
・７月６日、ピーチの“空の旅”と和歌山産桃の“甘み”をまるごと体感していただくイベントを関西空港で開催し、北海道や九州・沖縄からピーチを利用された搭乗客の皆さんに「和歌山の桃（紀の里白鳳）」をプレゼント。桃を受け取ったお客様からは、「和歌山県が西日本一の桃の産地とは知らなかった。格安運賃のＬＣＣピーチに乗って、こんなプレゼントをいただけるなんて、うれしい！」と喜ぶなど、大変好評でした。

●県内小学校へももを提供しました

・県では、地産地消の取組として、昨年度から県内小学校・特別支援学校の給食や家庭科等の教材として主要農産物の提供を行っており、今年度は、みかん、かき、魚に、うめ、ももを加えた５品目を提供します。今回、教育委員会と連携し県内すべての小学校２５８校で「もも」を使い、子どもたち自らが包丁を使った皮むきやジャムづくり体験等を行いました。
・また、以下の学校において、各振興局農業振興課の職員が「もも」の生産状況等について子どもたちに説明する出前授業を行いました。出前授業を受けた子どもたちは、「ももの作り方や収穫量が分かって勉強になった。」と話し、自分で皮をむいたももを食べて「おいしい」「甘い」と大盛況でした。

実施日	実施校名	実施日	実施校名
７月８日	かつらぎ町立妙寺小学校	７月１１日	白浜町立白浜第一小学校
７月９日	広川町立南広小学校	７月１２日	海南市立日方小学校
７月１０日	紀の川市立川原小学校	７月１７日	那智勝浦町立宇久井小学校
７月１１日	岩出市立岩出小学校	７月１８日	印南町立清流小学校
７月１１日	湯浅町立山田小学校		

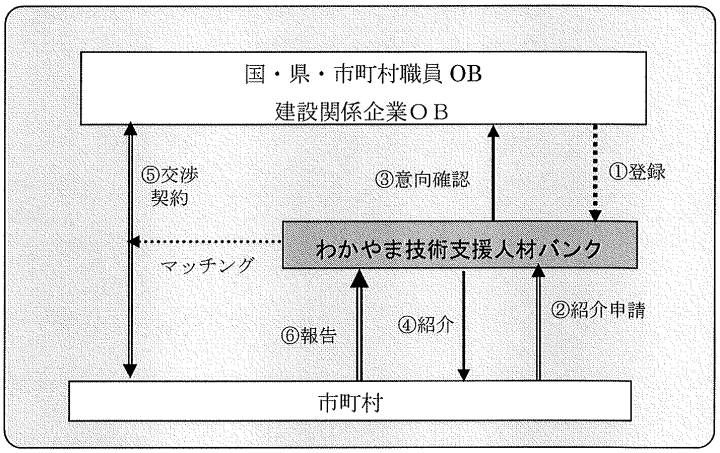
●「那智の火祭り」熊野那智大社例大祭が行われました

・７月１４日、那智勝浦町の熊野那智大社の例大祭「扇祭（那智の火祭り）」が開催され、式典の冒頭、仁坂知事は、「２年前の大水害により大社は大きな被害を受けましたが、宮司をはじめ神社関係者、地域の皆様の努力により立派に復旧しました。」と挨拶しました。
・扇神輿に乗って那智の滝に戻ってくる熊野の神々を迎えるため、氏子たちが１２本の大松明を担いで練り歩き、この松明には、一昨年９月の台風１２号による紀伊半島大水害で倒れたヒノキが使われるなど復興への願いも込められていました。
・また、約６００年の歴史がある伝統芸能「那智の田楽」が、ユネスコ無形文化遺産登録後初めて奉納され、日曜日と重なった今年の祭りは人出も多く、例年以上の盛り上がりを見せました。

今月の和歌山県政トピックス

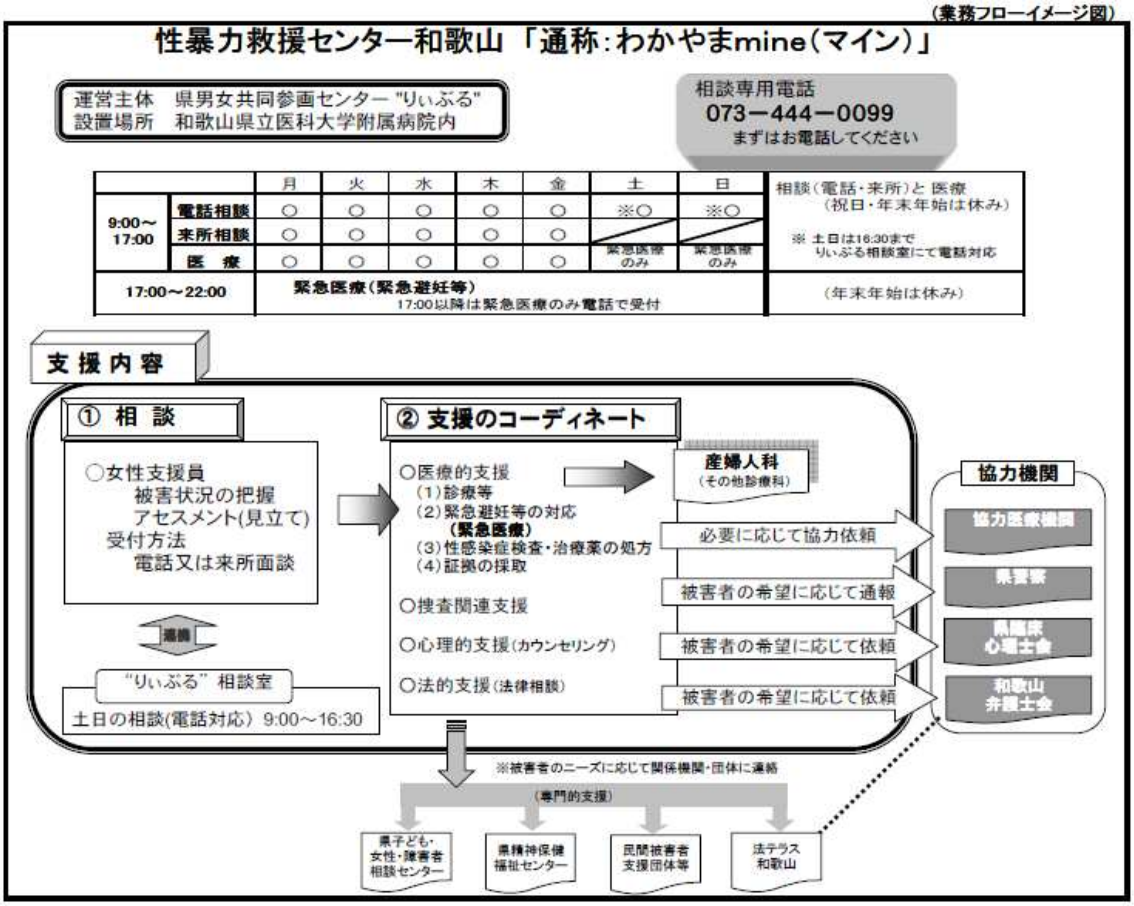
●わかやま技術支援人材バンクを創設しました

・県は、大規模災害時の復旧事業や平常時の市町村の土木事業等専門的な行政ニーズに対応する人材支援を行うため、退職された公務員や企業の技術者情報を登録する人材バンクを設置し、７月１６日から募集を開始しました。
・技術系の職員が不足している市町村に適切な人材を紹介し、災害復旧を早めることが主な目的で、このような取組は全国初となります。
・詳細はこちらをご覧ください。
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/081600/index.html



●性暴力救援センター和歌山「わかやまｍｉｎｅ（マイン）」を開設しました

・県では、性暴力を受けても警察に届けることもできず、どうしたらよいかわからずに悩んでいる被害者の相談を受け、緊急医療（避妊医療等）が必要であれば産科医療につなぐとともに、事後の心のケアなどの総合的な支援により、心身の負担軽減、健康回復、警察への届出促進及び被害の潜在化防止を図ることを目的に、性暴力救援センター和歌山を県立医科大学附属病院内に開設しました。
・詳細はこちらをご覧ください。
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031501/mine/index.html



●「夏はゆったりフェリーで和(なご)み旅キャンペーン２０１３」開催中！

・南海フェリー株式会社が運航する和歌山徳島航路の利用促進を図り、四国から県内観光地への誘客につなげるため、同社と和歌山県、公益社団法人和歌山県観光連盟の３者による「夏はゆったりフェリーで和(なご)み旅キャンペーン２０１３」が、７月２０日から始まりました。
・このキャンペーンの周知と和歌山県の観光地をＰＲするため、７月２４日から７月２６日までの間、和歌山観光ＰＲシンボルキャラクター「わかぱん」とキャンペーンスタッフ等によるキャラバン隊が結成され、四国各県の新聞社等を訪問しました。また、８月３日の１１時００分徳島港発のフェリー「かつらぎ」船内において、わかぱんが１日船長を務めるＰＲイベントが行われます。

・キャンペーンの実施期間は、８月３１日まで(８月１０日～８月１５日を除く。)で、期間中に徳島港発和歌山港行フェリーに乗用車で乗船の方の中から、抽選で県産品やフェリー割引券、オリジナルトートバックをプレゼント。キャンペーンの詳細は下記ホームページをご覧下さい。
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020500/nagomitabi2013.html

●和歌山県庁本館が国の登録文化財に

・国の文化審議会は、７月１９日、戦前の洋風建築の特徴を残す和歌山県庁舎本館を登録有形文化財に登録するよう、文部科学大臣に答申しました。今後、官報に告示され、正式に登録されることとなります。
・県庁本館は、昭和１３年完成の鉄筋コンクリート造りの４階建てで、昭和２０年の和歌山大空襲をくぐり抜けてきました。

・現役の都道府県庁舎で国の文化財に登録されているのは、愛知県、静岡県、神奈川県のみで関西以西での登録は初めてとなります。
・県庁本館の外観は、ネオ・ルネサンス形式で、鮮やかなタイルに彩られた風格のある趣があり、正面玄関はブロンズ仕上げの玄関扉や石膏製の彫刻などが施されています。玄関ホールに入ると、吹き抜けの大きな階段があり、２階と３階の踊り場にはそれぞれ「古事記」を題材としたレリーフがあり、どちらも地元に縁のある彫刻家・保田龍門の力作です。４階にある公式行事や賓客をお迎えする際に用いられる正庁は、随所に黒江塗りが施され、品格のある黒が床に敷きつめられた赤絨毯と相まって、厳かな雰囲気を醸し出しています。また、大きな暖炉を備えた知事室も風格のある空間で、戦後まもなく昭和天皇が本県行幸の際に宿泊されました。
・皆様も、ネオ・ルネサンスの薫りただよう和歌山県庁を是非、ご訪問ください。

●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会企業協賛制度に係る感謝状贈呈

・この度、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会企業協賛制度における協賛企業が以下のとおり新たに４社・１団体決定し、７月２９日、感謝状を贈呈しました。
・仁坂知事は両大会への協賛を申し出いただいた各企業・団体の皆様に、「協賛金及びそれぞれのお立場からの提供物品を十分に活用して開催準備を進めて参ります。」とお礼を述べました。
○協賛企業・団体

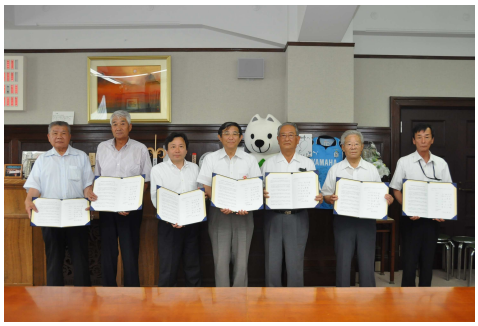
区分	企業・団体名	提供内容	出席者
ｵﾌｨｼｬﾙｽﾎﾟﾝｻｰ	ノーリツ鋼機株式会社	協賛金５００万円	西本 博嗣 代表取締役社長ＣＥＯ
ｵﾌｨｼｬﾙｻﾌﾟﾗｲﾔｰ	株式会社コムテック	自走式車椅子	小村 文宏 代表取締役会長 小村 哲也 代表取締役社長
	和歌山県スポーツ用品小売協同組合	ソフトボール用簡易内野フェンス	瀧本 明生 理事長
	デュプロ精工株式会社	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ印刷機及び小型製紙装置「RECOTiO」による使用済用紙再生業務	池田 弘樹 代表取締役
	紀州新聞社	日刊紀州新聞の紙面広告	源地 武士　総務部長

●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金（きいちゃん募金）に係る感謝状贈呈

・この度、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金（きいちゃん募金）に多額の寄附をいただき、７月１１日と７月３１日に感謝状を贈呈しました。
・仁坂知事は寄附をいただいた以下の各企業の皆さんに、「みなさまのおかげで開催準備も着々と進んでいます。今後は一般の方々の参加機会をつくり、両大会を盛り上げて行きたいと思っています。」とお礼を述べました。
・提供いただきました寄附金は、両大会のボランティア活動や県民運動など、大会運営経費に活用させていただきます。

企業名（7/11）	出席者	企業名（7/31）	出席者
菱岡工業㈱	岡田 亜紀 代表取締役	南海化学㈱	池田 和夫 取締役社長
笠野興産㈱	中南 隆夫 取締役	小畑産業㈱	小畑 英三 代表取締役
紀和化学工業㈱	前川 俊次 代表取締役	㈱海邊組	海邊 俊行 代表取締役社長
㈱宮本工業	宮本 次朗 代表取締役会長		
本州化学工業㈱	福島 俊之 常務取締役・和歌山工場長		

●「湯浅御坊道路４車線化事業の推進に関する協定」の調印式が行われました



・湯浅御坊道路４車線化の早期完成を目指し、円滑な事業進捗に相互に連携して取り組むため、７月１７日、和歌山県、沿線市町(御坊市、湯浅町、広川町、有田川町、日高川町)及び西日本高速道路株式会社において、標記協定の調印式が行われました。
・仁坂知事は、「これから土地の買収など、やらなきゃいけないことが沢山ある。みんなで力を合わせて、この４車線化を一日も早く完成させていきたい。」と意気込みを述べました。
・協定には、事業期間短縮のための推進体制の構築、県・沿線市町の専任体制による用地取得の促進、事業連絡調整会議の開催などの内容が盛り込まれており、県でも７月１日から、有田振興局内に８名の専任スタッフ(湯浅御坊高速事務所)を配置し、早期完成に向け用地買収に取り組んでいます。

●東南アジア諸国連合観光連盟（ＡＳＥＡＮＴＡ）国際会議が和歌山県で開催

・和歌山県は、和歌山県観光連盟と連携し、東南アジア諸国連合観光連盟（ＡＳＥＡＮＴＡ）の国際会議を招致し、７月２８日から８月１日にかけて白浜町のホテルシーモアにおいて開催されました。
・ＡＳＥＡＮＴＡとは、東南アジア１０か国の観光関連団体から構成される団体であり、ＡＳＥＡＮ域内の観光情報の交換や市場動向、今後の組織の方向性を議論するため、年に数回国際会議を実施しています。 今回の国際会議では、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポールの観光関連団体の代表者約２５名が参加しました。
・県では、今回の国際会議の招致にあわせて、ＡＳＥＡＮＴＡと県内観光事業者との商談会や県内観光地視察を実施しました。訪日旅行者数が急速に拡大する東南アジアの旅行業界のトップに和歌山県の魅力を直接伝えるという絶好の機会を活かし、東南アジアからの更なる観光客誘致を図ります。

●和歌山県立医科大学生２２人が知事を訪問しました

・和歌山県立医科大学「県民医療枠」「地域医療枠」の６年生２２名が大学卒業を前に仁坂知事を訪問し、地域医療に対する思いを語りました。
・「県民医療枠」とは、卒業後９年間、県内の地域中核病院を中心に勤務し、県内医療の中心的な役割を担う人材を養成することを目的とした募集枠、「地域医療枠」とは、卒業後９年間、へき地の拠点病院を中心に勤務し、へき地の医療など地域の医療に貢献する医師を養成することを目的とした募集枠で、学生たちはその第１期生です。
・仁坂知事は、入学定員の増員に向けて国と交渉した過程などを説明し、「皆さんは和歌山県の期待の星です。どうぞよろしくお願いします。」と激励しました。
・今後、学生の皆さんが和歌山県の医療の中核として、活躍されることを期待します。

●箕島高等学校の壮行式を開催しました

・７月３１日、第９５回全国高等学校野球選手権記念大会に出場する、箕島高等学校（２９年ぶり８回目）の健闘を祈り、県庁正面広場において壮行式を開催しました。
・仁坂知事は、「古豪復活とよく言われるが、過去と現在の選手・監督は全然違うもの。これからの箕島高校の歴史を皆さんたちの手でつくるという気概でプレーしてきてください。」と激励しました。中西 玲人（りょうと） 主将は、「和歌山県の代表として、精一杯頑張るので応援よろしくお願いします。」と意気込みを話しました。
・箕島高等学校は和歌山大会において、全５試合一度もリードを許すことなく安定した試合運びで優勝し、全国大会での活躍が期待されます。皆様も応援よろしくお願いします。

●平成２５年度在京和歌山県人会通常総会開催

挨拶する谷口新会長

・７月７日、ルポール麹町において、在京和歌山県人会通常総会が開催されました。総会では、竹中会長の挨拶のあと、事業報告や予算などとともに役員改選に関する議事が承認され、これまで会長を務められた 竹中 美晴 さんの後任として、谷口 博昭 さん（一般財団法人国土技術研究センター理事長：和歌山市出身）が選任されました。
・総会に続く懇談会では、余興のイタリア民謡が流れる中、市町村ごとに設けられた各テーブルで、懐かしい話に盛り上がるなど、終始、和やかなひとときとなりました。

●平成２５年度大阪和歌山県人会通常総会開催

・７月２７日、大阪市のホテル日航大阪において、大阪和歌山県人会総会が開催されました。
・事業報告や予算などが審議された総会に引き続き、近畿連合の各県人会関係者も出席して懇親会が開催されました。冒頭、佐竹会長は、「復活して６年目を迎える。会員の皆さんとともに、今後とも大いに活動を盛り上げていきたい。」と挨拶。
・また、来賓として復活後、初めて出席した仁坂知事は、紀伊半島大水害からの復旧をはじめ、高速道路ネットワークの推進、２年後に迫ったきのくに和歌山国体への取組など最近の県政の話題を紹介しながら、ふるさと和歌山への一層の協力を呼びかけました。
・会場には、恒例となった田辺市による梅酒の試飲コーナーも設けられ、懇親会を盛り上げました。
・また、最後にはお土産として佐竹会長の実家で獲れた旬の桃が会員に配られるなど、ふるさとの香りに包まれたひとときとなりました。

イベント情報(８月１０日～９月１０日)

期間	行事名	場所	問い合わせ先
8/10	紀文まつり	有田市役所周辺	有田市商工観光課 0737-83-1111
8/13	高野山万燈供養会 ・ろうそく祭り	高野町・奥の院参道	高野山観光協会 0736-56-2616
8/13	盛夏の成人式	田辺市本宮町	田辺市本宮行政局 0735-42-0070
8/15		古座川町	古座川町教育委員会 0735-72-3344
8/14	下駄市	海南市・黒江川端通り	海南市産業振興課 073-483-8461
8/15	興国寺火祭り	由良町・興国寺	興国寺 0738-65-0154
8/15	嵯峨谷の神踊り	橋本市・若宮八幡神社	嵯峨谷神踊り保存会 0736-42-3581
8/16	椎出鬼の舞	九度山町・椎出厳島神社	椎出鬼の舞保存会 0736-54-4365
8/16	傘鉾神事	九度山町・古沢厳島神社	古沢厳島神社総代代表 0736-54-2723
8/23	灯とぼし	橋本市・国城、三平神社	橋本市観光協会 0736-33-3552
8/23	二河の火祭り	那智勝浦町・ 二河三光山金剛寺	那智勝浦町観光協会 0735-52-5311
8/26～ 8/30	熊野水軍の埋蔵金探し	白浜町・白良浜	白浜観光協会 0739-43-5511
8/31	八咫の火祭り	田辺市・大斎原	熊野本宮観光協会 0735-42-0735
9/3	光三宝荒神社「献灯祭」	橋本市・光三宝荒神	光三宝荒神社 0736-32-7484
9/6	ｷｬﾝﾄﾞﾙﾗｲﾄｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ in あらぎ島	有田川町・あらぎ島	有田川町産業振興室 0737-52-2111

興国寺火祭りは、盂蘭盆会の精霊送りとして六斎念仏・松明踊・大松明(どよう)・燈籠焼の行事からなります。８月１５日の夕刻、檀家が新仏は白張り、年忌は色紙の大燈籠を掲げて法堂(本堂)に集まり、法要をつとめたのちカマ場にむかいます。松明踊につづき、長さ４ｍ、重さ３００ｋｇのどよう４本に火をつけ妙技をみせ、そのあと念仏と鉦・尺八の奏する中を、開山燈籠を先頭に各戸の燈籠を火中に投じるものです。

自然・風物情報(８月中旬～９月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
８月中旬	早くも稲刈り	串本町・津荷地区	ＪＡ紀南 0735-62-3333
８月中旬	ブドウ狩りオープン	有田川町・有田巨峰村 田辺市･紀南観光ぶどう園	有田川町金屋庁舎商工観光課 0737-52-2111 紀南観光ブドウ園 0739-24-2305
８月中旬	なし・リンゴ狩り	かつらぎ町・観光農園	かつらぎ町産業観光課 0736-22-0300
８月中旬	那智の滝ライトアップ	那智勝浦町･熊野那智大社	熊野那智大社 0735-55-0321
８月中旬	ユウスゲの花開花	田辺市・新庄町	田辺市管理課 0739-26-9966
８月下旬	マンゴー出荷最盛期	湯浅町・ 近畿大学附属湯浅農場	近畿大学附属湯浅農場 0737-62-2953
８月下旬	イチジク出荷最盛期	紀の川市	ＪＡ紀の里農産物流通センター0736-73-7200
８月下旬	ミヤギノハギ満開	高野町・正智院	正智院 0736-56-2331
９月上旬	クエ初入荷	日高町	日高町観光協会 0738-63-3806
９月上旬	あらぎ島で稲刈	有田川町・あらぎ島	有田川町ふるさと開発公社　0737-25-0221
９月上旬	パンパスグラスが見頃	田辺市・新庄総合公園	田辺市管理課 0739-26-9966
９月上旬	トビウオ漁最盛期	串本町・串本漁港	和歌山東漁港 0735-62-0080

近畿大学附属湯浅農場で栽培するマンゴー「愛紅」は、平成２０年に品種登録された新品種で、国内初のマンゴー新品種として注目を集めてきました。育成は、台湾で栽培されている「金煌（きんこう）」と国内の主力品種である「アーウィン」を交配させて平成１０年にスタート、糖度はアーウィンよりも高く、味は濃厚で繊維質が少ないため、きめが細かくプリンのような滑らかな食感が特徴です。

（平成２２年イチジクの収穫量）

順位	1	2	3	4	5
都道府県名	愛知県	和歌山県	大阪府	兵庫県	福岡県
収穫量（ｔ）	2,814	2,284	1,530	1,282	1,281

～編集後記～

７月上旬には例年より早く梅雨が明け、それとともに連日猛暑日を記録するなど、まさに酷暑といった様相を呈しておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、現在、旬を迎えている桃のＰＲに関する取組をいくつか紹介させていただきました。和歌山県は、みかんや梅が特に有名ですが、実は桃の収穫量(平成２２年)も全国第４位と、西日本では最大の産地なのです。県内では、紀の川市においてもっとも多く生産されており、なかでも旧桃山町は江戸時代に栽培が始まったと言われるほど、とても古い歴史があります。春には同町内の紀の川沿いから山の中腹にかけて桃の花の濃いピンクの絨毯がとてもきれいですし、夏には全国的にも高い評価を受けている「あら川の桃」ができます。

甘くておいしい桃ですが、ビタミンＥや食物繊維が多く含まれており、栄養が豊富であることは知られていましたが、この度、高血圧や動脈硬化の抑制効果があることが確認されたと、県立医科大学等のグループが発表しました。桃に多く含まれているポリフェノールの一種が、動脈硬化や高血圧の原因となるホルモンの一種(アンジオテンシン２)の活動を大幅に抑制するとのことです。今後、産地の住民の方々を対象に、心疾患や生活習慣病の発生率を調べるなど研究が進められるそうです。

トピックスでも「田中３きょうだい」が応援隊に就任とご紹介しましたが、県では、豊富な果実、新鮮な海の幸、さらには醤油、梅干しなどをおいしくて健康にも良い食材としてＰＲしていきますので、皆様もお店で和歌山県産を見つけたら是非お買い求めいただきたいと思います。

もう一つ、夏と言えば甲子園の高校野球、今年の和歌山県代表は、県立箕島高等学校です。和歌山だよりをお読みいただいている皆様の中にも、私のようにこの名前に懐かしくもまた大いに期待を抱いている方もたくさんいらっしゃると思います。

応援よろしくお願いいたします。

さて、まだまだ暑い夏は続きます。適度なエアコンの利用とこまめな水分補給、おいしいうえに食べて健康になれる和歌山の食材を召し上がって、この猛暑を乗り切ってください。

知事室秘書課長　森田　康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のＦＡＸ（様式自由）、Ｅ-Mail 等でお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail　e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ　http://www.pref.wakayama.lg.jp/

ふるさと和歌山応援サイト　http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。

2013 年（平成 25 年）８月　NO.６４

和歌山県　秘書課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通１－１
TEL 073-441-2022